

ていたか。

A 市長 例えば要望書といった形では上がっていないと承知をしております。

市民の声もさることながら、木戸川の河口の堤防が非常に弱かったということは事実だと思います。

Q 県、国で進められている復興とはまた別に、市としても、できる限り地域全体が明るくより安心が高まることを目指し、いろいろなところにまだ復興が必要だと思っがどうか。

A 市長 災害に強いまちづくりに取り組んでいかなければいけないという考え方をしっかりと、行政として、ここで根づかせるといことが大事だと思えます。市民の皆様方にも、そのように考えていただければと思います、この教訓を生かすまちづくりをしていきたいと考えています。

個人質問



井野 敬一 議員

●成東駅南側整備事業の進捗状況について

Q 成東駅の現在の駅前広場は、面積が狭いため、バスの一部路線については、駅前広場から離れた道路上に停車し、乗降している。

また、歩車道は分離されているが、歩道は狭く朝夕の通勤・通学時では、歩道からはみ出して通行しなくてはならない。

さらに、バリアフリーに対応していないことから、高齢者・障害者の移動に支障をきたしている。これらの問題に対応するため、駅前広場の整備が平成24年から開始され、11月4日の千葉日報に、駅周辺まちづくり協議会主催による駅前広場デザインコンペが開催され、学生がまちづくり提案をしたという記事が掲載されたが、現在の整備の進捗状況はどうか。

A 市長 昨年度の路線測量、用地測量等に引き続き、今年度から用地の補償を開始し、また、詳細設計を行っているところだ。

A 市長 用地補償については、既に2件契約し、その他の地権者の皆様については、物件調査の立入の御協力をいただいて、現在、補償金額の算定等を行っています。

Q 今後はどのような都市整備課長 今年度は用地補償を進めます。今後、個別に補償内容及び補償金額の説明をし、御協力を得られる方から補償契約をさせていただきます。予定です。来年度は、補償物件の移転が完了し、工事の施工体制が確保できた時点で、工事に着手したいと考えています。

なお、この工事の施工は、駅前広場の機能を維持したまま施工するため、段階的な施工になり、時

間を要するものと考えています。

Q 用地補償が予定までに完了しなかった場合は、どのようになるのか。

A 都市整備課長 工事の施工を来年度からとさせていただきますが、これを変更することも考えています。その場合は、来年度予算として計上する予定の工事費を、翌年度以降に変更します。なお、社会資本整備事業交付金の事業期間が平成28年度

までとなっていますが、平成27年度までに工事着工ができれば、支障がないと考えています。

Q 駅前広場の空間デザインコンペはどのようなものか。

A 都市整備課長 10月27日に、成東駅まちづくり協議会にて開催されたものです。魅力的な駅前広場にするためには、機能だけでなく、空間演出も大切であるということから、重要な景観構成要素のデザインを募集

したものです。千葉大学大学院のデザイン文化計画研究室が、最優秀賞を受賞しています。

Q コンペで提案されたデザインは、実際に採用するのか。

A 都市整備課長 コンペでは、造形的に美しく、周辺の街並みと調和して、空間全体の魅力を高めるもの、デザイン性にすぐれているもの、独創性のあるものを優先しており、実現性を強く求めたものでない

成東中学校の現状について

【別表】

教室の問題点	<ul style="list-style-type: none"> ロッカーや壁、天井が古い。 暗い。天候の悪い日は照度が基準に達していない教室もある。 黒板の位置が低い。全面を使う場合は、教壇を横に移動して授業を行っている。 出入り口が低い。電子黒板を教室に入れることができない。 教室が狭いため、黒板の周りにIT関連機器を置くことができない。 教室の照明のスイッチが廊下についており、移動教室の際に消灯を忘れやすい。 教室の出入り口のサッシが外れやすくなっている。修理するにも、汎用品と規格が違うため特別注文になってしまうので、応急処置をして使用している。 特別支援学級教室に毎年羽アリが出るが、発生個所のみで工事ができず、羽アリの穴をパテで埋めて対応している。
通路等の問題点	<ul style="list-style-type: none"> 校舎全体がバリアフリーでない。スロープ等が全くつけられていない。 階段の高さが違う。場所によっては、10センチメートル程度段差が異なるものがある 廊下の天井板がなく、後から設置したコード類を束ねた配管がむき出しであり、一部は廊下の通行部分にも出ている。 電球が高さ3.5mの天井に設置されており、重いガラス製のカバーを外したうえで交換作業をする。困難な作業で危険を伴う。 2階の廊下に使用されているPタイルは、湿度が高いと結露するため滑りやすくなる。また、古くなると角が破損してくるが、破損したタイルだけを交換するのは非効率なため、破損したままになっている。 教室にあるロッカーでは生徒の荷物を収納できないため、廊下に別途ロッカーを設置している。廊下が狭くなり、圧迫感が生じる。
水道、配管等の問題点	<ul style="list-style-type: none"> 水道管が古い。時々、水に茶色の小さな粒が混じる。飲料用にする場合は、しばらく水を流してから利用している。 増築した建物から浄化槽に汚水を運ぶ管が一部排水溝になっており、気象条件によっては悪臭を放つ。 グラウンドのバックネットの下には水道管とガス管が横切るように配置されているなど、配管が意外的な場所にある。